

心の距離 仕切らず結ぶ 仙台・高進商事

機械部品・設備販売の高進商事（仙台市）は、アクリルの仕切り板に絵画を描いた「アートシールド」を発売した。新型コロナウイルスの飛沫感染対策でアクリル板の使用が広がる中、「遮断」のイメージを和らげようと考案。小田原宗弘社長は「人と人の縁を結び付けられる仕切り板になった」とPRする。

アクリル画で知られる仙台市の画家ウエノイチローさんが、仕切り板の下側に富士山と竜を描いた。色合いは画面で異なり、絵の具とアクリル板の厚みを生かした立体感が目を引く。

高進商事は4月に通常の「デスクシールド」を発売。アクリル板は一般的になったが、小田原社長

は空間が分断され、話し相手との心理的距離が離れる印象が気になっていた。「もっと楽しめるものにできないか」と考え、交流のあったウエノさんに依頼した。

同社が東日本大震災を契機に2014年に発売した防災グッズ「ザ・セカンド・エイド」も、高いデザイン性で贈答用に人気を集める。小田原社長は「応接室の真ん中のアートシールドが定着して、いつか『コロナがきっかけだったよね』と話が弾むようになってほしい」と思い描く。

ウエノさんが手描きする完全受注品。高さ70センチ、幅100センチで税別50万円。価格やサイズは相談に応じる。連絡先は高進商事022(762)6221。



アクリル板にウエノさんの作品が描かれた「アートシールド」をPRする小田原社長